

* ボランティアの皆様へ *

被災地へ入り活動する上で、大切な心構えがいくつかあります。
ボランティアとして、適切な動きが出来るよう心がけてください。

最低限の注意を忘れない

ただでさえ混乱している被災者の心を、かき乱すような姿勢は望ましくありません。あいさつや言葉遣い、約束を守ることなど、基本的なことを大切に。

断る勇気をもつことも大切

「役に立ちたい」という気持ちが先走って、なんでもやす請け合いしてしまう人もいます。「できないことはできない」と断る勇気も必要です。出来ないことを受けてしまうことの方が、後で大きなトラブルになりかねないことを忘れずに。

自分のことは自分で守る

被災者支援に来たはずが、なぜか現地で被災者に負担をかけてしまうことがあります。病気、食事や就寝場所の確保、帰省時の交通費不足…。これらは全て、現地での生活に対する姿勢や、事前準備の不足が原因です。病気や食べ物、住居に困っているのは現地の被災者です。ボランティアがそれを奪ってしまえば、もともともありません。「自分のことは自分で守る」のが基本。貴重品等の私物も、個々で管理して下さい。また、保険加入も各自で済ませておきましょう。

思い込みを取り払う

勝手な思い込みが、被災者との心のすれ違いを生むことがあります。マスコミの報道等で植えつけられた先入観なども、活動する上で現実とのギャップを感じる原因となります。思い込みによる、勝手な行動は慎んで下さい。

気負いすぎはトラブルのもと！

活動先で「何をすべきか」をしっかりと理解することが大切。「自分がやらなくて誰がやる！」と気負い過ぎていると、被災者に「大きなお世話」と思われてしまうことも！

対等な関係

被災者とボランティアは「してもらう人」「してあげる人」という関係ではなく、復興に向け「共に協力しあう」関係にあることも忘れないで下さい。被災者に対し「かわいそうな人」という見方をせず、ボランティアが対等な関係を意識し、「一緒にやりましょう」という姿勢を持つことが大切です。